

MCPG モバイルクラウド委員会が「ライフサポート研究会」開催 シニアライフを支えるプラットフォーム構築を提案

日時:2015年2月20日13時30分~17時

場所:機械振興会館 地下2階 B2-1 会議室

モバイルクラウド委員会は2015年2月20日、シニア向けのライフサポートについて検討しているイノベーション・エコシステムワーキンググループ(WG)の取り組みや成果を紹介し、さまざまな業種の参加者と意見交換する機会として、第1回目の「ライフサポート研究会」を開催しました。

イノベーション・エコシステムWGは2014年7月に発足し、シニア層の心身の健康を支え、シニア・家族・地域に豊かで安心な暮らしを提供するライフサービスの創出について検討、議論を重ねてきました。



同WGの主査を務める東芝ソリューション(株)ヘルスケアIT事業統括部 参事の金森潤氏は、イベントの開会挨拶で「私どもの取り組みは、“ホーム=在宅”のシニアを中心とする生活者向けに魅力ある安心・健康・便利・楽しみのサービスを提供し、ホームの外にある人、モノ、サービスとのつながりを活性化することでICT以外の業界の発展に貢献するものです」と、活動の意義を述べました。

シニアライフの実態と課題を解説

さらに金森氏は、「シニアの方々がイノベーション・エコシステムで豊かな生活を送るために」と題したキーノートスピーチで、シニアを取り巻く現状の分析、その結果から導き出した課題やニーズと有効な対応策などについて解説しました。

講演の中では、統計データやWGの独自調査などで得たシニア層の実態として、以下のようなポイントが掲げられました。

- 日本は65歳以上の人口が増え続け、今年度中に3400万人を突破すると見られている。ただ、そのうちの2800万人強(8割以上)は自立している「アクティブシニア」である。
- 総計約5300万世帯のうちシニアのみで暮らす世帯は約1200万世帯にのぼり、その半数は5年後に独居世帯になると予測されている。
- 日本人は世界一の「平均寿命」を誇るが、平均寿命と健康寿命の差が開く傾向にあり、日常生活に何らかの支援や介護が必要なシニアが増えている。
- シニアの間では「人生や生活を充実させたい、アクティブに楽しみたい」という意識が年々高まっている一方で、「健康」「お金」をはじめ将来の不安が強くなるうへ、不安解消のためのアクション

ンを起こすのも難しい。

●ライフスタイルの傾向として、女性は外向性・社交性が強いが、男性は内向的になりがち。例えば、一緒に出かける相手に「配偶者」をあげる割合は女性よりも男性のほうが圧倒的に高く、一人暮らしになると「困った時に頼れる人がいない」という男性シニアも多い。

●シニアが不便に感じることの上位には「日常の買い物」「交通機関の利用」「公共施設の不足」があげられる。

これらを解説したうえで金森氏は、「健康寿命を延ばすためにどんな支援をすべきか」、「ライフスタイルの男女差や多様化にどう対応していくか」、「元気なシニアと支援を必要とするシニアの両方をサポートするにはどうすればよいか」などの課題を提示。WGでの検討を経て、業種を越えた連携によるサービスの創出、ネットワークインフラやトレンド端末の開発、社会的な仕組みの整備などについて積極的な提案を行っていく意向を示しました。

「DB マーケティング」と「女性の美」をテーマにゲストが講演

続いてのゲストスピーチでは、CCC マーケティング(株) マーケティング営業部 担当部長の上山洋一氏と、女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 教授の松本博子氏が講演しました。



上山氏は、「CCC(カルチャ・コンビニエンス・クラブ)の購買データでできる新しいマーケティング——生活者の業種横断購買からみえるマーケティングチャンスの発見」と題して、CCCグループで運営するTポイント/Tカードを生かしたDBマーケティング事業のポイントについて語りました。

もともとはTSUTAYAのレンタル会員向けサービスを出発点とするTポイント/Tカードは、さまざまな機能強化とともに提携企業数も拡大。提携先はすでに120社超、利用可能な店舗はネットショップも含め約30万店(うちリアル店舗は約9万店)に達しています。こうした利便性の向上に伴って会員数も5200万人を突破するまでになっています。

この膨大な会員がさまざまな店舗でTカードを利用した際に収集されるデータは、「単なる決済情報ではなく、“何を”“どのくらい”購入したかまで把握できる点が大きな特徴です」と上山氏は話し、提携先でのデータ活用方法として、商品購入のトライアルレポート分析、趣味・嗜好に応じたPOSクーポン付与などの具体例を紹介しました。

さらに上山氏は、趣味・嗜好に関する300項目程度の設定条件をもとに会員のプロファイリングを行い、そのデータをクーポンやDMの対象者絞り込みなどに活用するといった手法も取り入れていることを明らかにしました。

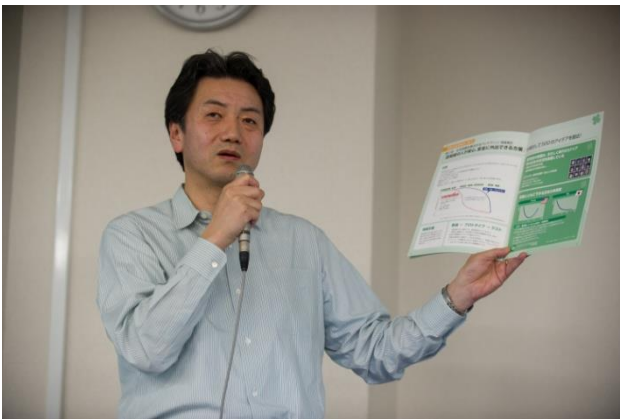


松本氏は、「女性の美と健康に対する意識——美・創」をテーマに講演しました。

その冒頭では、「女性には年代を問わず、一貫して“美”というテーマがあります。10～20代は『もっときれいになれる可能性』、30～40代は『変化の受け入れ』、50～60代になると内側のきれいさを求める『健康』、70代以降は『生命力』を意識します。これらはいずれも『美しくありたい』という気持ちの表れです」と論説。ここから女性向け商品・サービスを提供する際のポイントの1つとして、シニア世代もターゲットに入れた新しい化粧品の登場を取り上げ、「美へのモチベーションをいかに持たせるかが重要」と述べました。

また、商品を提供する側が重視すべきキーワードとして「ユーザー・エクスペリエンス(UX)」を提示。「モノ＝商品からコト＝経験価値(UX)を連想させることが、購買意欲を喚起し、製品やブランドのファンづくりにつながっていきます」と語り、ある基礎化粧品のCM戦略やブランドムック(ファッションブランドの付録を付けたムック本)を具体例として紹介しました。

講演後には参加者から2つの質問が寄せられました。まず、「UXの効果はどうすれば得られるか」との問いがあり、松本氏は「デザイン思考で探るのが有効」と回答。続いて「(前向きな女性に押されている)男性はどうすればよいか」という投げかけには、笑顔を見せながら「年輩の男性も、かっこよく見せるために第一印象を気にするべき。『かっこいい』と言われるのは誰でも嬉しいはず。男性がきれいな人に囲まれたと思うように、女性もかっこいい人に囲まれたと思っています」と返答しました。



シニア支援に注力する自治体の先進事例を紹介

休憩を挟んで後半は、MCPC モバイルクラウド委員会の委員長を務めるドコモ・システムズ(株) クラウド事業部 第一営業部 営業推進担当 担当部長の森山浩幹氏がマイクを執り、自治体のシニアサポート事例の紹介やシニアサポート

の方策に関する提案を行いました。

自治体事例には長野県佐久市を取り上げ、森山氏が現地でヒヤリングした内容を解説しました。

佐久市では、柳田清二市長が自ら Twitter で地域の緊急災害情報をツイートやリツイートし地域住民に広めるなど、IT活用を積極的に進めています。

他方で、日本トップクラスの長寿地域で、高齢者の県内一の就業率や要介護者・認知症患者

の少なさなど健康寿命も長い傾向にあることから、「PPK(ピン・ピン・コロリ)の里」づくりを標榜して介護予防体制の充実、さらにシニア向けの多種多様な支援事業にも注力しています。

佐久市の取り組み

長野県佐久市 PPK(ピン・ピン・コロリ)の里

信州佐久は、日本でも有数の長寿に里として知られております。住みやすい風土と、千曲川の清流、そこで育った佐久産、新鮮な野菜・果物などの食物と、昔ながらの勤労さ、信仰の深さが健康長寿の秘訣と考えられております。

東京駅～(新幹線あきさ) 約72分～佐久平

【平均寿命】(佐久市)

総計	99,958人	男 81.7歳	女 88.0歳
男性	48,929人	女 88.0歳	
女性	51,029人	長野県 男 80.9歳	女 87.2歳
世帯数	39,957人		

佐久市の取り組み

1. 日本一の長寿県
平成17年度都道府県寿命表(H19.12.17厚生労働省公表)における長野県の平均寿命は、男性第1位(H2年より1位)女性第5位(H2年より5位以内をキープ)で全国1位の長寿県です。中でも佐久市は県内有数の長寿を誇っております。また、平均寿命は全国1位ですが若年死亡率は全国22位にすぎず、且つ佐久市の90歳以上の平均余命は3.9歳で、そのうち活動余命は2.2歳ということから、なるほど前まで元気な暮らしという「健康で長生きし(ピンピン)楽に大往生する(コロリ)」=ピンピンコロリがテーマと裏打ちされています。

2. 低医療費で高就業率
この事が知られたのは、小栗純一郎氏が首相在任時にお得意のワンフレーズで「元気で長生きできる方法は、まず長野県に見習うべきだ」と言い放ち注目を浴びました。普通に考えれば、老人が多ければ医療費はかかるはずですが、佐久市の一人当たりの老人医療費(H19年現在)は、全国平均年間83万円を大きく下回る69.8万円となっております。また、国民健康保険中央会の資料によれば、長野県の高齢者就業率は全国1位、70歳以上で配偶者のいる事も全国1位と驚くような数字もあります。

3. 少ない要介護高齢者
長寿だけでなく、寝たきりや痴呆などで介護を必要とするお年寄りが少ないのも大きな特徴です。65歳以上の寝たきり高齢者は2.98%(全国平均5.33%、長野県平均3.54%)、痴呆高齢者率は0.52%(全国平均0.59%、長野県平均0.84%)となっております。

佐久市の取り組み

いきいきシニアライフ

介護予防事業(地域支援事業)

- はつらつ水泳クラブ
- 高齢者見守りボランティア活動
- 介護予防ふれあいサロン事業
- 在宅生活支援事業
- 介護職向上講座
- 介護職職能向上研修
- 転倒予防講座(はつらつと健康クラブ)
- 認知症予防講座(授業事業)
- はつらつ音楽教室事業
- 認知症高齢者音楽療法用CD製作事業
- 健康長寿体操教室
- 健康長寿体操ビデオ制作事業
- 二次予防高齢者訪問指導事業
- 認知症予防講座(授業事業)
- 高齢者見守り事業

佐久市の取り組み

いきいきシニアライフ

生活支援対策事業

- 地域高齢者相談・相談・指導事業
- 高齢者見守り
- 高齢者外出支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者事業
- 生活管理支援施設設置事業(ショートステイ)
- 認知症対応型ショートステイ事業
- 認知症対応型ショートステイ事業
- 認知症対応型ショートステイ事業
- 認知症対応型ショートステイ事業
- 認知症対応型ショートステイ事業
- 認知症対応型ショートステイ事業

佐久市の取り組み

いきいきシニアライフ

任意事業・その他事業(地域支援事業)

- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業
- 認知症対応型高齢者支援サービス事業

森山氏は、「シニア向けライフサポートをともに推進する相手先として自治体は有力な候補です。佐久市のようにITリテラシーが高くシニアの支援事業にも積極的な自治体と協力して、サービスなどのトライアルもできるのではないかと考えています」と、今後の期待を語りました。

WG活動をもとに考案した2つの“プラットフォーム”を説明

続いて、これまでに開催したアイデアソンおよびハッカソンでテーマに取り上げた「認知症の人が安心、安全に外出できる方策」について、イベントで集められたさまざまなアイデアを紹介するとともに、具体策の1つとして「シニア向けソーシャルプラットフォーム」の構築を提唱しました。

この案は、認知症や認知症予備軍などの高齢者を「ハッピーシニア」、高齢者の家族や親しい友人、医師、ケアマネージャーなどを「ハピネスフレンド」、高齢者を手助けできる近隣の人々を「ハピネスサポーター」と位置付け、ハッピーシニアが外出先で困った時あるいは行方不明になった時、ハピネスフレンドおよびハピネスサポーターを含めて緊急通知や捜索依頼、情報交換をスムーズに行える仕組みを提供しようというものです。森山氏は、不明者捜索・保護のサポート役として、地域の学校やTwitter、FacebookなどSNSを活用することも提案しました。

シニア向けソーシャルプラットフォーム MCPC

認知症の方を中心としながら、認知症予備軍の方、高齢者の方、家族、親しい友達、医者、ケアマネジャーとそれらの方々をサポートできる方々のプラットフォームを構築し、色々の間につながり、絆を創ることで、すべての方々がより幸福で、豊かな生活ができる環境を提供する。

認知症サポートメンバ

- **ハッピーズフレンド**
認知症の方、予備軍の方の家族、親しい友達、医者、ケアマネジャー等、困った時に相談できる人達、本人をよく知る人達、家族の負担を軽減できる人達。
- **ハッピーズサポーター**
近隣にお住いの認知症の方々等をサポートできる人達、困っている人達を助けることができる人達、地域間に組織されるが全国全世界組織にしている。
- **ハッピーシニア**
認知症の方々、認知症予備軍の方々、サポートを必要とする高齢者の方々。

Copyright © 2013. Maki Consulting Platform Co.,Ltd. All rights reserved.

認知症の人が安心・安全に外出できる方策 提案資料 MCPC

1. 学校によるサポート
小中学校、高校、大学等に提示してもらい役してもらおう。

【具体策】
・小都市の高齢者見守り協力事業所向け情報提供FAX(行方不明者の保護についてご協力をお願い)には、依頼者、行方不明者住所等検索に要しない個人情報が含まれている。この依頼者、行方不明者の住所を削除し、そのまま提示してもらえFAXに変更する。
・学校の提示前にそのまま提示して頂く。
・発見した際には、通常と同様ルートで通報して頂く。
・子供にもお年寄りを大切にすることの醸成もできる。

その他、コンビニ等の協力事業所にも同様FAXに変更し、そのまま提示してもらうようにする。

【課題】
・提示する写真をカラーにならないか
・特徴はもったわりやすくないか
・行方不明になった時の状況を記述する箇所がない

Copyright © 2013. Maki Consulting Platform Co.,Ltd. All rights reserved.

認知症の人が安心・安全に外出できる方策 提案資料 MCPC

2. SNSを使った検索
認知症の方が行方不明になった際に、FacebookとTwitterを利用し、情報拡散し、地域の方々に探してもらおう。参考)静岡市ではメールで行っている【具体策】
・情報の公開は家族より了解を事前(とる)。

■ Twitter活用(情報拡散)
・既存小都市のTwitterアカウントもしくは、福祉課のTwitterアカウントを作る。どちらで行うかを決める。
・1で作成したFAXと特徴等テキスト情報を投稿する。
・tweetには決まった、タグをつける(#mimichiro 地域名)
・近隣連携のため、同様に施策を行っている市には、上記タグしたものをリツイートしてもらおう。自動でも可能。

課題
・見つかったら、情報を可能な限り戻したい。
・followerを募る方法、拡散の方法を欲しい。

Copyright © 2013. Maki Consulting Platform Co.,Ltd. All rights reserved.

さらに森山氏は、男性シニアによく見られる例として、定年退職を境に張り合いや生きがいをなくして体調を崩し、介護や支援が必要になることを取り上げ、生活が大きく変化を乗り切るための策として、仕事が現役のときから新たな生活環境への移行準備を促進する「ライフサポートプラットフォーム」を提案。「仕事以外の人の関わりを作れる場、新たな経験の機会ややりがいを見つけられる仕組みなど、家を取り巻く企業が連携して、新しいビジネス機会としてプラットフォームづくりに取り組んでいただきたい」と語りました。

皆さんならどうしますか? MCPC

■生活に大きな変化がある時が課題
変化以降 1年程度で、これ以降の生活、医療への関わり等へも影響が大きく変わる!!

この間をつなぐことが大事。
家を取り巻く企業が社会に役立つ、挑戦できる環境支援。
会社生活 ⇒ **ライフサポートプラットフォーム?**
に支えられた生活

会社現役生活があるうちに準備、移行を促進させる!!

Copyright © 2013. Maki Consulting Platform Co.,Ltd. All rights reserved.

皆さんならどうしますか? MCPC

この間をつなぐことが大事。家を取り巻く企業が支援。
会社生活 ⇒ **ライフサポートプラットフォーム?**
に支えられた生活

会社現役生活があるうち(50代?)に準備、移行を促進させる
ライフサポートプラットフォームどんな機能が必要か?

- 毎日集える場所
- 会社以外の人との関わり
- 新たな経験をできる
スポーツ、趣味、新たな役割、挑戦できる環境
- 会社以外のやりがいが見つかる 等々

>> 現役で付き合っている家を取り巻く企業が **新たなビジネスの場として支援**

Copyright © 2013. Maki Consulting Platform Co.,Ltd. All rights reserved.



この後、意見交換の時間が設けられ、参加者側にマイクが渡されました。主なコメントとしては次のようなものがあげられます。

- ・シニア世代の社会貢献活動への積極参画を支援する NPO 法人「プラチナ・ギルドの会」の運営に携わっているが、シニアが元気を保つ鍵の1つはやはり「働く」ことだと思う。
- ・企業勤めの方は、定年退職だけでなく役職定年のタイミングも要注意。会社に命をかけ

過ぎないこと、継続的な趣味を持つことも重要。最近の若者に多い「週末起業」もよいと思う。

- ・シリコンバレーでは会社を退いた後にコンサルティング業を始める人が多い。日本も参考にしようか。
- ・シニア世代は生活基盤がしっかりしている人ばかりではない。仕事を求めているシニアがきちんと職を見つけられるようにマッチングの機会を増やしていくことも重要だと思う。
- ・定年後に備えたライフサポートプラットフォーム＝毎日集える場所の提供に関して、雇い主であ

る企業もトータルコストと認識して参加する必要があるのではないか。

- ・ライフサポートプラットフォームの場所の候補として図書館があると思っている。
- ・ライフサポートとして、アクティブでないシニアの方々に向けた支援も考えていきたい。
- ・シニアのモチベーションを上げる手として、孫世代を巻き込んだサポートサービスも一考ではないか。
- ・認知症の防止や進行を遅らせるには、会話することも大事なのではないかと思う。その手立ての1つとして、会話型アプリや対話ロボットなどの有効度も研究してほしい。
- ・高齢者を交通弱者として捉え、どう守るかを考えることも重要。
- ・地方では移動手段として車が欠かせない。シニアのライフサポートとして自動運転などの技術の進化も重要。

そのほか、今後のWG活動や研究会の開催に関して「若い世代や女性にもっと参加してほしい」という声もありました。

森山氏の挨拶で閉会した後は、場所を変えて懇親会が催され、なごやかな雰囲気の中でより深い議論が交わされました。